

孫文 2019

—— 特別展と特別講演 ——

11月3日、孫文記念館主催の特別講演会は、島田大輔早稲田大学講師を迎えて、友の会会員、孫文研究会、太田宇之助の関係者や東京久我山にある太田記念館の管理の大西さんなど約60名が参加。活発な質疑応答のあと、二階に移動し特別展を観覧しました。



「忘れられた稀代の中国通ジャーナリスト ～太田宇之助と日中の夢～」を拝聴して

11月12日の孫文の誕生日に因み、舞子の孫文記念館（移情閣）では、今年の記念すべき「孫文月間」に合わせ、11月2日～12月1日の1か月間、「ひょうごの人々と近代中国 ～ジャーナリスト太田宇之助の見た中国と孫文～」と銘打つ特別展が開催されている。その超目玉とも言える企画が、11月3日（日）の午後2時から約1時間の予定で、早稲田大学社会科学部講師の島田大輔先生にご講演頂いた、標題の「特別講演」だと確信している。

参加には10月28日までの予約が必要だったからか、開演5分前には、既に立ち見が出るほどの盛況ぶりだった。移情閣友の会の例会ではお見掛けしない市民の方々が大半のようで、神戸の、否、日本における孫文に対する根強い人気や関心の証ではないかと感じた。

愛新翼館長の挨拶に続き、島田大輔先生の博士論文のテーマである太田宇之助の略歴や事蹟を拝聴する。名前も初耳で、目から鱗状態となった。太田氏は、揖保郡網干町（現姫路市）の地主

の分家出身だが、幼くして両親を結核で亡くし、一家は離散。成績優秀なるも、貧困と病弱により退学を余儀なくされる。苦学の末、早稲田大学に編入学し、在学中に中国革命に参加。この時のレポートが縁で朝日新聞社に入社。中国専門記者となり、1917～1943年退社までの27年の記者生活中、14年間は中国に駐在。北京・上海の通信員・支局長として、孫文・蒋介石・汪精衛ほかの単独取材及び孫文死去のスクープで活躍。日中間では「互信互譲」の精神を貫き、戦後は中国留学生支援に尽力し、95年の天寿を全うされた。

（中国文化同好会 金川幾久世）



—— 音楽と講演の会 ——

11月17日、孫文記念館にて開催。音楽の部はコーラスと二胡演奏。講演の部は二本立てで、①兵庫県観光監 城 友美子さんによる「兵庫県の観光施策」と題した講演。②神戸大学大学院 羅志偉教授による「健康ルネサンス時代を迎えて」と題した講演を拝聴した。羅教授は講演で、治病医療から未病予防へと転換する時期が来た。長寿社会は健康学を重視すべきだと啓示。日本はまだまだ予防医学にかける予算が少ないのが実態。私達一人一人が健康を意識する生活を送ることが大切であると話され、講演後に活発な質疑応答がありました。延べ152名の参加を得て成功裡に終えることができました。



講演 ① 兵庫の観光政策 — 講師 城 友美子 兵庫県観光監

兵庫県は平成31年度総ツーリズム人口を1億5000万人に目標設定。平成29年度観光客入込数は1億3905万人であった。兵庫県への平成30年観光客数首位は阪神甲子園球場で438.8万人、台湾からの来場も盛ん。続いて、宝塚北サービスエリア、明石公園、姫路城などが上位に入り、移情閣入館者数は年間1万6,000人程とのこと。

インバウンド4000万人を見込んでいる時代、兵庫県における外国旅行者数については平成30年度は187.2万人。内訳は①中国23%42.7万人、②韓国22%41.5万人、③台湾20%37.6万人、上位3位で7割超。中国は短期滞在が主流で日本食や買い物に強い関心があり、台湾は4～6日滞在中で個人旅行が多く、リピーター率8割以上の傾向